

## 充血を抑える市販の目薬

想像してみてください……今日は職場の部下の結婚式で挨拶をしなければなりません。しかし、朝起きると突然の充血。奥様から「貴方！眼が真っ赤よ！今日は結婚式なのに恥ずかしいわよ！」なんて困った経験のある方はそれほど多くはないと思いますが、そんな状況を想像していただければ「何か良い解決法があれば便利だけどな…」と考える方が多いのではないのでしょうか。日頃から慢性のアレルギー性結膜炎があり、眼科にも通院していて目薬も処方してもらっている方ならそれを使用すればよいわけですが、そうでない方はまず「急いで眼科を受診する」ということになります。しかし、今回は結婚式ですので土・日・祝・祭日の可能性が高く眼科が休診、もしくは式に出かけるためにあまり時間がありません。そこで「薬局で目薬を購入する」ということになります。こうした状況は頻度が多いようで「充血治療の目薬」は薬局にて多数販売されています。薬剤師さんがまず勧めるのは「塩酸テトラヒドロゾリン含有の目薬」のことが多いようです。「塩酸テトラヒドロゾリン」は充血に対して効果が強いという事なのですが、その効果は中等度という所です。軽い充血であれば効果がありますが、強い充血の場合には効きません。そして、効果が出なかった場合には「たまたま眼科のやっていない時間帯だったし…あきらめて眼が赤いまま記念写真におさまるか。どうせ少しアルコールも入るんだし…」と我慢するしかないのでしょうか。うーん、もっともらしい結論ですね。しかし、諦めるのはまだ早計です。もう一種類、別系統で薬局で購入できて、切れ味よく充血を抑えられる目薬の成分があります。その成分は「塩酸ナファゾリン」です。この成分は非常によく効くので、過去にはよく使用されていました。しかし、すごく長期にかつ頻繁にこの成分の目薬を使用していると白目(結膜)の血管が太くなってしまって、むしろ日頃の充血が慢性的に強くなってしまい、そうするとナファゾリンも効かず充血が治らなくなってしまう事があり、こうした副作用を踏ま

先輩の眼科の先生達が「ナファゾリンを使用すること＝悪である」という風潮を作り上げてしまいました。実際、僕も研修医時代に上級医から「血管収縮薬(=ナファゾリン)の点眼を処方する眼科医はヤブ医者だ」という教育を受けた記憶があります。このため、薬剤メーカーさんは副作用が少なく効きも弱めな塩酸テトラヒドロゾリンを含有する目薬を開発するに至ったようです。全て正しい事なので否定はできませんが、今日は特別大事な結婚式なのです。つまり、**ごくごく稀**に起こる充血に、**ごくごく稀に**目薬でその場を凌ぐには塩酸ナファゾリンが効果的なわけです。即効性も期待できます。しかし注意も必要で、慢性的に充血が強い方が日常的にナファゾリン含有の目薬を使用することは避けるべきです。過去にはそうしたケースが多かったようですが、多くの場合、薬局さんで勧められて長年目薬を使用して眼科を受診せずに副作用を発症したものと想像されます(あくまでも想像です)。また、かなり効果がよいため病状によっては重症疾患の初期症状を緩和してしまい、逆に疾患の発見を遅らせてしまう可能性もありますので、今回のケースでは結婚式の終了後、翌日には眼科を受診することが理想です。つまり、症状の出方と薬の使い方を誤らなければ「塩酸ナファゾリン」を主成分とする目薬は非常に有効なアイテムといえます。ただし、薬剤師さんに相談するとこうした事を踏まえてもなお「塩酸テトラヒドロゾリン」を成分とする目薬を勧められることがあるようです(実際、僕の患者さんでそういう方があり「効かなくて困ったよ」とこぼしておられました)、最終的には具体的な商品名で購入することをお勧めします。以下に塩酸ナファゾリン含有目薬の代表例を示します。



携帯サイト用QRコード

- ① スマイルA (ライオン)
- ② マイティアクリーンクール(千寿製薬)
- ③ 大学目薬(参天製薬)

<http://www.fujita-ganka.com>